

2022 年度第 1 回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議 開催報告

日時：2022 年 8 月 4 日（木）18：30～20：30

参加者：65 名

2022 年度第 1 回目のネットワーク会議は「子どもをめぐる生物多様性」というテーマの下、Zoom ミーティングで、基調講演、報告、トークセッションを行った。

基調講演「子どもと生物多様性」（大阪公立大学大学院 平井規央教授） 大阪市では副読本「おおさか環境科（小学校～中学校）」を配布。小学生 5、6 年生で生物多様性を学習していることを紹介。大阪府科学大賞の小学生の研究対象は生きものにしたものをテーマにしたものが半数以上と高い。

報告 1「保育・教育現場にみる食育と生物多様性」

（栄養教諭 相愛大学人間発達学部講師 前田栄子）食育を通じ、子ども自身が「食べる物を選択する力を身につけること」や、国の法律として「食育基本法」が平成 17 年度から施行されたこと。現在の食糧自給率は大阪では 2%にとどまっているなど紹介があった。

報告 2「自然農法の伝統野菜づくりと生物多様性」

（大阪市エコボランティア 小川咲恵）鶴見緑地の自然体験観察園畑での、なにわ伝統野菜を育てる「伝統野菜講座」では野菜の栽培を通じ、身近に生物多様性を知ることができることを紹介。

報告 3 「大阪の農産物は知れば知るほど美味しくなる」（放送作家・ライター 湯川真理子）

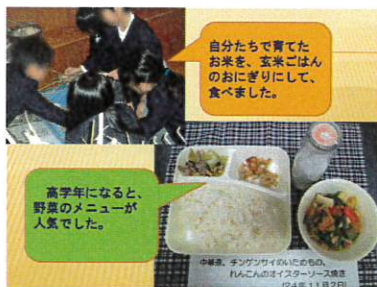
自身が住む近所の今井水路では近年周辺の田圃がマンションになるなか、美しいものは記憶に残ることについて紹介。例として、箕面の自然栽培のイチゴ畑、羽曳野のブドウ園、ミシマウド栽培などについて話があった。

報告 4「大阪城公園・生きものすごいぜ！」バイオームを使った観察会（大阪城生きものいっぱいプロジェクト 垣井清澄）

7 月 30 日に大阪城公園内で実施。普段生きものと触れあう機会がない方にも、スマートフォンアプリ（バイオーム）の活用により都市部でも子どもから大人まで生物多様性を身近に感じてもらうことができた。

トークセッション「子どもをめぐる生物多様性」食育や地産地消の取り組みを給食からみる

本日のスピーカー 4 名で意見交換をした。伝統野菜を食べる経験を通じ、食卓を豊かに。おいしいものを食べる習慣、土地の名前・神事に繋がるのが伝統野菜、食べることと生態は繋がっている。まずは大阪産（おおさかもん）の野菜を買うところから始めてみる。



報告 1) で生きるうえでの基本を学ぶ学校給食



報告 2) 自然農法（不耕起栽培・無農薬）による収穫体験



報告 3) なにわの伝統野菜である、大阪産（もん）の情報発信

参加団体：大阪公立大学大学院、大阪市環境局、大阪自然環境保全協会、相愛大学、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪市エコボランティア、日本自然保護協会、NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会、環境事業協会、天王寺動物園、なにわエコ会議、なにわ伝統野菜研究会、大阪府シェアリングネイチャー協会、大木里山倶楽部、TOREK 自然農法、紫金山みどりの会、日本水防災普及センター、鉢ヶ峯の自然を守る会、環境科学研究センター、吹田自然観察会、東信自然史研究会、プレパークたねっこ、吹田くわいの会、枚岡ネイチャー、ボランティアグループ「道親仲間」ほっ♪のものす